

編集後記

この編集後記は、お詫びの言葉から始めなければなりません。

1. 1989年の3月と1990年3月に日文研で開催しました国際シンポジウムの参加者数名から、各国の日本研究事情をお聞きしたのですが、当方の編集作業が大幅に遅れてしまい、『世界の日本研究』（第5号）として、ここによく活字にすることができました。1989年の一部の日本研究事情報告は『世界の日本研究』（第2号）に掲載されています。ワキサカ、ボライソ、ウィッシュワナタン、リディーンの四氏の文章がそれなのですが、この時に掲載できなかつたのが、スラジャヤ、セイズレー、キムの三氏の文章です。活字にするのが大幅に遅れたこと、この場を借りましてお詫び申し上げます。

2. また、1990年のものがヴィンケルホーフエローパー、ファトヒ、エセンベルの三氏の文章です。クリステワ氏のもは、1991年1月に日文研で開催しました「特別研究:世界における日本認識の形成過程とその現状」の研究会で報告してもらったものです。

3. 魯氏の文章は、1992年の6月に国際交流基金のフェローとして関西学院大学に滞在中の同氏に、日文研で開催したセミナーで報告してもらったものに、帰国後新たに中国の日本研究の全体像を見渡せるような文章を付け加えてもらったものです。内容に、いささか重なる部分もありますが、そのまま掲載することにいたしました。

4. 『世界の日本研究』（第2号）の〔編集後記〕に『世界の日本研究』の編集方針は書いてあります。ご参考下さい。投稿歓迎いたします。

1993年6月

園田英弘